

令和4年2月定例市議会

施政方針

和歌山市

ただいま上程されました諸議案の審議をお願いするに当たり、私の市政に対する所信の一端と、令和3年度の国補正にかかる補正予算と令和4年度当初予算の大綱を申し述べ、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

(新型コロナウイルス感染症に関する現状と展望)

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々にお見舞い申し上げますとともに、長期にわたり、新型コロナとの闘いにご協力いただいている市民の皆様、そして、新型コロナ対応の最前線におられる、医療従事者はじめ日常生活における必要不可欠な仕事を担っておられるエッセンシャルワーカーの皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

本市でもオミクロン株による感染拡大で、連日陽性者数が過去最多を更新し、かつてないペースで感染が広がりました。このため、保健所業務の逼迫を回避すべく、応援職員を派遣し、感染症対策本部機能の強化を図るなど、全庁一丸となって感染対策に取り組んでいます。また、ワクチン接種についても、医療と保健の連携のもと、接種スピードの加速化を図るなど、市民の皆様の生命と安全安心な

生活を守るための取組を更に進める所存です。

新型コロナウイルス感染症が私たちの日常生活に与えた影響は大きく、そして長期化しているこの状況下において、市民に寄り添い、必要な支援を着実に届けることが行政の責務です。市民の皆様の「安心」と「生活」をしっかりと守り、一日も早く平穏な日々を取り戻すべく、全力で取り組んでまいります。

(令和4年度予算のポイント)

コロナ禍を一つの契機とした社会の変容及び価値観の変化により、テレワークをはじめとする新しい働き方やライフスタイルが注目され、地方移住への関心が高まるなど、人々の暮らしに対するニーズが多様化しております。また、少子高齢化社会における子育てや介護等の生活課題、温暖化対策等の環境問題、地方都市における交通問題等、地域課題が複雑化することで、時代が行政に求めるニーズも高度に多様化しており、多角的な視点の都市経営が求められております。

他方で本市は、海・山・川に囲まれて都市が立地することで、都市暮らしと田舎暮らしがコンパクトにまとまっており、大都市圏と

のアクセスもよく、保健医療も充実しているなど、多様な暮らしを受け入れるための土壌を十二分に備えたまちです。本市の特色をこれまで以上に生かすとともに、時代の変化に柔軟に対応し、様々な暮らしを安心して続けられるまちを実現することが、豊かな市民生活の追求と、地方分散の潮流を捉えた定住人口の獲得につながるものと考えます。

令和4年度予算は、本市の持つ多面的な価値の再発見と活用を通じて多様な人や仕事を呼び込むとともに、全ての市民の生活を守るという強い思いを持って予算編成を行いました。

◆安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

次に、長期総合計画の4つの分野別目標に沿って説明します。

1つ目は、「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」です。

(人を呼び込み価値を送り出す地域産業)

コロナ禍を契機とした企業の地方進出意欲の高まりを逃さず捉え、本市への拠点開設や移住を伴う企業立地につなげていくために、企

業立地促進奨励金制度を3年間延長するとともに、大都市圏の企業に対する誘致活動を強化してまいります。また、令和3年度に創設した支援制度を活用し、まちなかや和歌の浦に新たなサテライトオフィスが開設されます。令和4年度も本支援を継続することで、県外企業の更なる進出につなげてまいります。

まちなかへの大学誘致1校目の東京医療保健大学では一期生が今春卒業を迎えます。就職する学生の7割が市内就職を決められており、ふるさとで学び、働ける、そんなまちに向かって進んでおります。さらに、テレワークをはじめ、時代とともに広まりつつある多様な働き方を本市の優良な環境の中で実践してもらえるよう推進するとともに、各種就職イベントの開催等を通じ、U I J ターンの促進や働く女性の活躍推進に取り組むことで、市内外から人を呼び込みながら産業の活性化を牽引する人材の確保に努めます。

企業が行う投資やチャレンジに対する支援を充実させておくことにより、新たな取組を後押しし、地域産業の活性化を図ります。また、地域に根付いた産業の需要開拓や高付加価値化、周知発信に努めることで、メイドイン和歌山を広く国内外に送り出すための取組を推進します。

国際拠点港湾を有する臨海部に位置する中央卸売市場において、コールドチェーンに対応した水産棟の再整備が完了しました。今後さらに、物流・流通の拠点としての機能強化を図ることで、地域産業の持続的な発展に取り組んでまいります。

(地域の魅力を生かした多面的な観光価値の向上)

ウィズコロナ時代の観光施策として、密を避けながら継続的な観光誘客につなげられるオールシーズン分散型観光を推進します。サイクリングや駅周辺のイルミネーション等、時期や時間に関わらず、訪れてみたいと思ってもらえるよう観光地の魅力を高めてまいります。

風光明媚な景勝の地としてその名を広く知られ、日本遺産にも認定されている「絶景の宝庫 和歌の浦」の更なる風致向上と魅力発信に向けた取組を進めます。今年には和歌祭が創始400年を迎えることから、徳川吉宗公役として松平健氏を招き、和歌山城周辺でも盛大に渡御行列を行うなど、その魅力を広く発信します。

本市主要観光地のひとつである加太では、友ヶ島を中心として、多面的・多角的な観光価値を生かした誘客促進の取組を展開します。

アニメの舞台を彷彿とさせ、コスプレの聖地としても評価されている同島をモデルとした漫画『サマータイムレンダ』が今年4月からアニメ放送されることから、ファンによるアニメツーリズムを盛り上げます。また、同島において問題となっている海岸漂着物を用いて「子供海ごみアート美術館」を開催し、SDGsの理念に沿った機運醸成を図るとともに、更なるエコツーリズムに繋げるなど、これまでの取組を通じて創出された多面的な観光価値を更に磨き上げ、多様な形で観光誘客を図ります。

本市が有する関西最大級の道の駅「四季の郷公園」においても第二期整備が完了し、4月にフルオープンを迎えます。コロナ禍における屋外レジャー需要の高まりを捉え、子供から高齢者まで幅広い世代が楽しめる公園とし、農業体験など体験メニューを拡充するとともに、高速道路や鉄道との連携の強化を目指すことで、ポテンシャルを最大化させ、更なる誘客に努めてまいります。

ポストコロナを見据えると、IRの実現は、本市に大きな経済波及効果や雇用が創出され、他に類を見ない大規模な投資効果が見込まれるなど、人口減少下におけるまたとない本市発展の起爆剤となります。IR区域内には、約12,000人規模の大規模な国際会

議場施設や2万平方メートル以上の展示施設、スイートルームが全体の24%を占める約2,500室規模の宿泊施設、日本の伝統文化を生かした魅力増進施設、送客施設やカジノ施設などが計画されています。観光やビジネスなどによる来訪者は年間約650万人と想定されており、IR区域内だけでなく、IR区域外の様々な産業分野へのプラスの波及効果が期待されます。現在、県が実施しているパブリックコメントや公聴会等による市民の皆様の意見を反映させた区域整備計画（案）に対し、同意・不同意を判断した上で、市議会に諮らせていただきます。

◆住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

2つ目は「住みたいと選ばれる魅力があふれるまち」です。

（住みたいと選ばれるためのまちづくりとプロモーション）

「トライアル和歌山市」と題し、ワーケーション等を通じた体験的な本市への滞在を促進するとともに、子育て世代にも利用いただきやすいよう、住民票を移動せずに本市の公立学校で学ぶことがで

きるトライアルスクールの仕組みを構築します。また、お試し居住施設の整備や、今年度実施し大いに賑わいが生まれたお試しショップの取組についても更に拡充し、様々な形で本市での暮らしを体験してもらうとともに、交流人口及び関係人口の増加を図ることで、本市に「住みたい」と実感いただけるよう取り組みます。

進学や就職により首都圏に行かれた方々を呼び戻せるよう、また、地方移住や二拠点居住に対する関心の高まりを逃さないよう、移住者に対する支援金などの制度をより充実させることで人を呼び込むとともに、各地域での移住者受入れ環境の向上を後押しし、住まいの確保に係る支援体制の構築を図るなど、本市での新たな「暮らし」のスタートにまで寄り添った移住定住施策を推進してまいります。

(にぎわいを拡げ愛着を深める魅力的なまちなか形成)

より魅力的なまちなかを形成するため、本市の玄関口となっている2つのターミナル駅周辺の更なる活性化を図ります。南海和歌山市駅周辺においては、市民図書館をはじめ、これまでの整備による賑わいのストック効果を最大限活用し、市民会館跡地に民間による投資や活用を誘起することで、これまで以上に活気あふれる空間を

目指します。また、J R 和歌山駅東口周辺においても、様々な機能を備えた利便性の高い拠点となるよう、更なる活用の方法について検討を深めます。

これまで誘致した5つの大学が令和3年度で全て開学し、まちなかを歩く若い方々の姿も着実に増えてまいりました。また、城前広場、和歌山城ホールの完成によって生まれた新たな都市空間をはじめ、賑わいの拠点がまちなかに揃いつつあります。これらの賑わいを更に育み、中心市街地全体へと伝播させていくため、これらの施設の更なる活用や居心地の良い魅力的な歩行者空間の形成により「まちあるき」を促進し、「点から線」に、「線から面」に拡げます。

本市のシンボルである和歌山城の更なる魅力向上に向けた取組を推進します。かつての姿を再現するべく、扇の芝の整備に向けた取組を進めるとともに、再建されてから60年以上が経過する天守閣の整備に向け、施設としての目指す姿について検討を行います。併せて、西之丸庭園の保存活用や、民間団体と連携した桜の再生など、城の歴史的価値の顕在化と景観づくりにも取り組むことで、市民にも来訪者にも愛される、魅力あふれる和歌山城を目指してまいります。

(文化・スポーツの振興)

和歌山城を臨む本市の文化芸術の殿堂であり、市民の交流の場でもある和歌山城ホールを拠点として、誰もが文化芸術に触れることのできる機会を創出するとともに、コンベンション等にも活用することで、幅広い交流を促進します。また、有吉佐和子氏の代表作にちなみ、紀の川のほど近くに同氏の邸宅を復元した、有吉佐和子記念館の6月オープンを目指します。図書館や博物館といった近隣施設とも連携し、文学の魅力を発信するとともに、交流を生み出すひとつの拠点となるよう進めます。

スポーツへの参加を通じた、健やかで明るい市民生活の形成を目指します。第20回を迎える和歌山ジャズマラソンについて、スタート地点を和歌山城に移したより魅力ある大会として開催するとともに、本市の環境を生かしたマリンスポーツの振興を図るなどにより、本市固有のスポーツ環境の魅力を向上させることで、市外からの誘客も含めた、スポーツへの参加促進に努めます。併せて、つつじが丘総合公園の整備を推進するとともに、様々な世代が多様なスポーツに取り組める環境の構築等について検討を行い、市民のスポーツへの参加機会及び環境の充実に向けて取り組んでまいります。

◆ 子供たちがいきいきと育つまち

3つ目は「子供たちがいきいきと育つまち」です。

(安心して子供を産み育てることのできる環境の整備)

全ての子供の健やかな成長を育む支援を強化するために、今年8月からこども医療費助成制度の所得制限を撤廃し、本市に居住する子供の中学校を卒業するまでの医療費の自己負担額を無料とするとともに、離婚等により生活基盤や経済基盤がより不安定になることが懸念される子育て世帯等に対し、養育費の受け取りに際し、保証会社を利用した場合に必要な保証料の助成など経済的支援を強化します。また、保育士不足の解消に向け、処遇改善や広域入所の実施等による保育人材の確保を図るとともに、適正配置などにより、保育を必要とする全ての児童に対し、適切な環境が提供できるよう取り組み、待機児童の解消を推進します。

児童虐待の未然防止及び児童擁護を図るため、こども総合支援センターの機能強化に取り組みます。関係機関と連携しながら子育てや子供の発達に関する不安の解消を図るとともに、ヤングケアラーに対する支援を強化することで、子供らしく生活できる環境づくり

を進めてまいります。

(深い学びと健やかな成長を支える教育)

個々の子供に応じたきめ細かな教育の提供と健やかな成長を支える環境づくりに取り組みます。個に応じた指導と安全安心な教育環境を実現するため、小学校において35人学級を更に進めるとともに、加太小中学校では自然豊かな環境と少人数の良さを活かした小規模特認校制度による教育活動を実施します。また、市立中学校の全員給食に向け、令和3年度に検討した実施方式に基づき、整備主体や運営方式、候補地の選定などについて更なる検討を行った上で実施計画を策定します。

コロナ禍において学びを止めないために、小中学校で整備したICT環境を日常的に活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めます。

従来からの地域ボランティアの方による見守りに加え、IoT/ICTを活用した子供の見守りとの連携を更に広げ、子供たちの登下校の安全性を向上させるとともに、家庭教育や地域先達との連携を更に深めることで、子供の確かな学力の向上を実現します。また、

小中学校の校舎等の老朽化対策や小学校トイレの洋式化、教室のLED化、熱中症対策のための中学校屋内運動場への冷暖房設備の整備などを促進することで、ソフト・ハードの両面から子供たちの成長を支える環境整備に取り組みます。

市民図書館はグランドオープン以降、多くの方々にご利用いただいております。昨年9月に来館者数が100万人を突破しました。市民図書館を拠点とした市民の読書活動の推進や、子供が図書に親しむことができる環境づくりなど利用促進に取り組みます。また、南コミュニティセンターの図書室を設置し、読書を通じて、子供たちの豊かな情操と未来を切り拓く人間力を育む環境整備に努めます。次世代を担う子供たちを、社会全体で大切に育てる取組を継続することで、引き続き「子育て環境日本一」を目指し、子育てしやすく、子供たちが健やかに育つ環境づくりを行ってまいります。

◆誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

4つ目は「誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち」です。

(新型コロナウイルス感染拡大防止策の推進)

新型コロナウイルス感染症の急激な拡大や長期化するコロナ禍に的確に対応するため、保健所の体制を強化し、市民の生命や暮らしを守りぬく取組を全力で進めてまいります。ワクチン接種については、感染状況や国の動向にあわせ、迅速に接種できる体制の維持に努めるとともに、市民の皆様の不安解消や高齢者施設等における感染拡大防止のための支援に取り組んでまいります。

(安心して暮らせる地域づくり)

六十谷水管橋の落橋では多くの市民の皆様にご不便ご迷惑をおかけしました。市内全域の安定給水を確保するため、送水管の複線化や新浄水場の建設、既存浄水場も含めた水道施設全体の在り方を再検討し、このことも踏まえ、本市の水道事業が抱える課題を整理し、その方向性を示すことを目的として「和歌山市新水道事業ビジョン」を策定してまいります。

災害時に迅速かつ的確な対応が実施できるよう、大規模断水事故における応急対策について、和歌山市防災会議へ諮問し、必要性が認められた場合は、和歌山市地域防災計画を改定し、体制強化に取

り組みます。

近年、大規模な災害が頻発しており、災害への備えがより一層求められています。災害用備蓄品を充実させるとともに、給水やトイレなどのライフライン確保に向けた整備を進め、加えて、避難行動要支援者登録制度を更に推進し、自力で避難することが困難な方が一人も逃げ遅れることがないよう事前の備えを強化します。

また、全国各地で甚大な被害をもたらす水害が毎年のように発生していることから、河川整備を促進し、適切な河川の維持管理に努めます。紀の川の治水対策については、紀の川大堰に関する和歌山市議会議員連盟の方々と共に要望を続けてきたことで、国において、新六箇井堰の水衝部対策として堰の部分的な切り欠きの効果検証が開始されています。

(快適なまちの形成)

利用者の減少や新型コロナウイルス感染症の長期化により、地域公共交通の維持がますます困難となっております。地域の活力を維持し、多極型コンパクトシティを形成するためにも、地域公共交通は不可欠であることから、既存交通事業者のあり方について検討を

行うとともに、社会実験を通じ、公共交通空白地域へのコミュニティバス等の代替交通の路線拡大を検討します。さらに、鉄道や路線バス、自転車や新たなモビリティも含め、地域内交通をシームレスにつなぐ交通ネットワークの充実を図るとともに、MaaS導入に向けた研究等を行い、暮らす人も訪れる人も快適に移動できるまちづくりを進めます。また、公共施設のバリアフリー化など、子供や高齢者、障害のある方などすべての市民が安全に施設を利用できるよう、引き続きバリアフリーのまちづくりを推進します。

和歌山環状北道路及び和歌山環状道路については、京奈和・第二阪和連絡道路建設促進和歌山市議会議員連盟の皆様と要望を続けてきたことで、国において、新広域道路交通計画に位置付けられました。臨海部周辺の工業地域からの陸上輸送力を強化することで、物流が効率化され、本市産業の活性化等につながるため、重要物流道路に指定され早期に事業化されるよう、引続き議員連盟の皆様と共に国に対し働きかけてまいります。

また、令和4年度には平成15年から整備を進めてきた市駅和佐線が完成し、中心部から和歌山ICへのアクセスが飛躍的に向上します。今後はさらに、今福神前線や有本中島線など幹線道路の整備

と併せ、生活道路の整備を推進してまいります。

社会全体のデジタル化が進展しています。本市では、令和3年度に新設したデジタル推進課が所管する和歌山市情報化推進委員会を中心に、全庁体制で、行政手続きのオンライン申請や窓口手数料等のキャッシュレス化など14のテーマについて取り組んでいるところです。今後はさらに、自治体情報システムの標準化・共通化やAI等の活用など、更なる行政のデジタル化に取り組み、コストの軽減や業務の効率化とともに、行政サービスの向上を目指します。併せて、令和3年11月に設立された「和歌山市スマートシティ推進プラットフォーム」を推進母体として、市全体の都市や地域の機能の効率化、高度化など新たな価値を創出するスマートシティの推進に官民連携で取り組みます。

(誰もが支え合い健やかに暮らし続けられる社会)

「相談支援」「参加支援」「地域づくり支援」の三つの柱を一体的に実施する重層的支援体制を推進します。地域住民が抱える複雑化・複合化した課題に対し、行政機関を含む様々な支援機関等が分野を超えて協働し、既存の取組では対応できないような狭間のニーズに

も対応できるよう、地域全体で寄り添い、支え合うための事業に取り組みます。加えて、本体制に不可欠な、地域づくりを实践する担い手の養成に新たに取り組み、一体的に運用することで支援体制の更なる強化を図ります。

誰もが住み慣れた地域において、健康で自立した生活を送るため、在宅医療と介護の連携による切れ目のない支援体制を確保し、住民や地域の医療・介護関係者と地域の目指すべき姿を共有しつつ、多職種連携を推進するなど、在宅医療提供体制の更なる充実を目指します。

また、特定健康診査や各種がん検査など、市民の疾病予防や健康維持への支援にも努めてまいります。

一人ひとりの人権が尊重され、多様な価値観を認め合う心豊かな共生社会の実現に向け、様々な関係団体と連携を図り、人権に係る啓発、教育、相談等を行います。また、令和4年度に策定される第5次男女共同参画推進行動計画のもと、女性活躍推進に関する啓発を行うとともに、障害特性等に配慮したきめ細かな支援を行うなど、誰もが個性と能力を十分に発揮し、ともに支えあい、活躍できる社会の実現を目指してまいります。

これまで、まちなかへの大学誘致や拠点づくり、市民との協働などを通じ、コンパクトシティに向けたまちづくり等を進めることで、賑わいの種を撒き続けてきました。継続的な取組によってそれらは次第に萌芽しはじめ、本市のまちなかは転入超過が続いております。盛り込んだ事業を着実に実行し、賑わいの芽を更に育てることで、長期総合計画で定めた「きらり輝く 元気和歌山市」を実現するため、市政運営に全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

以上が、令和3年度の国補正にかかる補正予算を含めた令和4年度予算の概要です。

令和4年度予算の規模は、

一般会計	1,441億	542万8千円
特別会計	1,010億4,268万8千円	
公営企業会計	380億5,256万8千円	
総計	2,832億	68万4千円

で、前年度に対する増減は、一般会計で0.4%の減、特別会計で3.9%の増、公営企業会計は2.8%の減となり、全体では0.

7%の増となっています。

一般会計の歳出は、障害者総合支援費などの扶助費、後期高齢者医療特別会計等への繰出金で増加となったものの、和歌山城ホールの完成などにより投資的経費は減少となるなど、総額としては、ほぼ同額となりました。

次に特別会計では駐車場管理事業などで減額となったものの、国民健康保険事業及び介護保険事業において保険給付費の増加、また、直轄事業用地先行取得事業では用地買戻しに伴う元金償還金の増加などにより、特別会計全体で増額となりました。

また、公営企業会計では、水道事業会計で増額となりましたが、工業用水道事業会計では浄水場整備計画の見直し、また下水道事業会計では企業債償還元金の減などにより、それぞれ減額となり、公営企業会計全体で減額となりました。

今後とも、事務事業の見直しや事務の効率化を進めるとともに、行財政改革を継続的に推進し、規律ある市政運営を行うことで、市民にとって不可欠な行政サービスの安定的な提供に努めてまいります。

なお、補正議案の詳細につきましてはこの後、また当初議案の詳細

細につきましては後日、担当局長から説明いたしますので、議員の皆様におかれましては、慎重ご審議の上、ご賛同賜りますようよろしくお願い申し上げます。